

# 気象予報士



## あるあるネタ

- ・「明日晴れる？」と軽く聞かれても、つい5分くらいの説明で答えてしまう。
- ・天気図を見ただけで、「これは崩れるパターンだな」と体が反応する。
- ・旅行に行くときは、まず現地の週間予報よりも等圧線の動きをチェックする。

## 初期の失敗

デビュー直後、原稿に「午後から雨」と書いたら、12時過ぎにポツポツ降り始めて苦情が殺到。先輩に「午後の定義は“12時過ぎ”からだから合ってるよ、でも心は“出先の人の靴”に合わせろ」と言われて気づきました。予報は理屈だけじゃ伝わらない。

## 職業病

空を見上げるクセが強すぎて、誰かと話していても雲に気を取られてしまう。「あれは巻層雲... ってことは」と分析モードに入り、天気アプリより自分の目を信用してしまうようになる。

## 健康問題

長時間のデスクワーク・天候との緊張関係・深夜帯の勤務（特にテレビや放送業務）により、肩こり・腰痛・目の疲労・睡眠不足が多く、気象災害時は精神的にも過労・緊張型ストレス・疲労蓄積が大きくなりやすい。  
台風シーズンや気圧の変化で、自身の体調も影響を受けることが少なくない。

## その職業に就いている人を讃える

あなたは、“空の表情を読み解く、天のナビゲーター”ですね。なぜなら、目に見えない空気の流れを感じ取り、誰かの洗濯、誰かの登山、誰かの命までを守る情報に変えて届けてくれるからです。

晴れれば誰も気にしない。外れれば大騒ぎ。それでも空と向き合い続けるあなたの姿は、まるで大気の詩人。季節の変わり目を、数字と地図と直感で読み解くその力は、地味けど偉大です。

どうかご自身の“体感”にも耳を澄ませてください。雲の流れと同じように、あなたの疲れも移ろっています。空だけでなく、あなたの今日も晴れますように。